

# よろずは

平成二六年

六月号

## 歌碑めぐり 8

山の辺の道には約三十基の歌碑があります。今回、ご紹介する歌碑は、その山の辺の道にあります。揮毫者は小説家として世界的に有名な川端康成氏です。刻まれた歌は「万葉集」ではなく「古事記」で、倭健命が詠んだ

大和は 国のまほろば たたなづく 青かき 山ごもれ  
る 大和し 美し

という歌です。川端氏が歌碑を揮毫したのは、桜井市出身の評論家である保田與重郎氏と旧知の仲であったためといわれています。ただし、川端氏が歌碑の刻字を書くまえに他界したため、自筆の原稿から文字が集められました。歌碑の石や立地は川端氏自身が選んだものです。山の辺の道には、他にも著名な小説家や画家、学者の揮毫による歌碑が点在しています。ぜひ探してみてください。

【万葉古代学係】

タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです。



奈良県桜井市三輪（井寺池の堤）